

小樽市委託事業  
平成28年度 高校生就職スキルアップ支援事業

実績報告書

平成29年3月31日

株式会社ホープ・ワン

= 目 次 =

本 編

I. はじめに	.....	P 1
(1) 業務目的	.....	P 1
(2) 実施期間	.....	P 1
(3) 業務内容	.....	P 1
II. 高校生（就職希望生徒）への支援について		
(1) 受講生の登録	.....	P 2
(2) 就活セミナー	.....	P 3
(3) 企業見学会	.....	P 3
(4) インターンシップ	.....	P 6
(5) 先輩との交流会	.....	P 7
(6) 企業紹介	.....	P 7
(7) 個人面談	.....	P 8
(8) キャリア支援出張授業	.....	P 8
(9) 就活実践サポート	.....	P 8
(10) 企業と高校を結ぶ情報交換会	.....	P 9
III. 新卒未就職者、若年早期離職者への支援について	.....	P 10
IV. 平成 28 年度事業を終えて（現状と課題及び今後の取組）		
(1) 高校生（就職希望生徒）への支援について	.....	P 10
(2) 新卒未就職者、若年早期離職者への支援について	.....	P 11

## I. はじめに

市内高校生に対するここ数年の求人倍率は2倍程度の高い水準で推移しており、就職を希望する生徒の内定状況は概ね好調である（平成27年度就職内定率98.2%）。

一方、市内高校生の就職内定者のうち、市内事業所への内定者の割合は45%前後で推移しており、若者の市外流出がその要因の一つとされる人口減少問題を抱える小樽市においては、高校生の地元企業への定着率向上が喫緊の課題である。

また、北海道における若者の早期離職率は全国よりも高く、小樽市においても新卒未就職者や若年早期離職者など若い世代における未就職の状況は、若者にとっては不安定な雇用や低所得化、キャリア構築できないなどのリスクが、地元企業にとっては人手不足や採用コストの増加、技術継承等への影響などが懸念される。昭和31年（1959年）以降、金融・商業機能の札幌への集約や港湾物流の太平洋側へのシフトなど、社会経済情勢の変化から、転出者が転入者を上回る状況が続いており、転出超過の約8割は生産年齢人口（15～64歳）でそのうち20～29歳の割合が約5割を占めている。

全国的に生産年齢人口が減少する中、小樽市ではその割合が53%程度と全国（6割）よりも低く、経済成長を決定する主要な生産要素の一つである労働力の減少が本市経済の成長に与える影響が懸念される。

このような状況の中、小樽市においては、平成21年度から主に高校生の就職に向けた実践力を早い段階から向上させ、正規雇用につなげるための取組並びに地元企業への定着促進を進めており、平成28年度においても、インターンシップや企業紹介など一部事業の見直しを行い、「高校生就職スキルアップ支援事業」を実施した。

### （1） 業務目的

主に市内高等学校において就職を希望する生徒の就職率向上及び地元定着を図るため、業務目的を以下のとおり設定。

- ① 高校生について、就職に対する意識向上を図るほか、コミュニケーション能力や礼儀作法など、就職活動に必要な心構えや就職後に求められるビジネスマナーの基礎知識等を身につけることを目的とした。
- ② 進路指導担当教諭などの学校職員及び高校生について、市内企業に対する理解及び認識を深めるとともに、高校生に対しわかりやすく市内企業情報を提供することを目的とした。
- ③ 市内高等学校及び市内企業において、意見及び情報等の交換及び共有ができる機会を設けるとともに、市内企業に対し人材確保のための機会を提供することを目的とした。
- ④ 新卒未就職者（事業実施年度の前年度に高等学校を卒業した未就職の者）及び若年早期離職者について、主に高等学校卒業後3年未満の者が安定した就労（正規雇用）につなげることを目的とした。

### （2） 実施期間

業務の実施期間は、平成28年4月1日から平成29年3月31日まで。

### （3） 業務内容

高校生（就職希望生徒）への支援として、就活セミナー、企業見学会、インターンシップ、先輩との交流会、企業紹介、個人面談、キャリア支援出張授業、就活実践サポート及び企業と高校を結ぶ情報交換会の取組みを実施。

また、新卒未就職者及び若年早期離職者への支援として、就活セミナー、企業見学会、個人面談、就活実践サポート、職業紹介事業及び生活支援事業の取組みを実施。

## II. 高校生（就職希望生徒）への支援について

### (1) 受講生の登録

4月上旬に市内全8校を訪問し、当該事業の概要説明及び登録用紙の配布を行い、事業への参加を希望する生徒からの登録申込みを受け付けた。

4月末の登録者数は218名で、その後は随時受付を行い、最終的な登録者数は前年度と比べ2.25倍となる397名（前年度末登録者数177名）となった。増加要因としては、次年度以降に卒業する生徒の登録者数が210名増加し全体を押し上げたことが挙げられる。

学校別には、小樽水産高等学校の生徒が8割を占めている。小樽水産高等学校では、学年別に当該事業に係る説明や登録の機会を設けていただいております、多くの生徒が当該事業を知ることができ、登録につながっている。特に、1年生及び2年生の登録人数が多いことについては、早い時期から就労意欲の醸成が行われるものと考えている。一方、他の高等学校については登録人数が少なく、就職希望者の割合が高い学校においても本事業が活用されていない状況が伺える。

なお、フォローアップ生徒（卒業年度の前年度に登録し引き続き卒業年度にも登録した生徒）の年度末登録者数は35名（前年度44名）となり、前年度と比べ約2割減となった。

【年度末時点での高等学校別の登録者数】

学校名	全日・定時	1年	2年	3年	4年	H28計	H27計
北海道立小樽潮陵高等学校	全日	—	—	—		—	—
	定時	5	8	9	6	28	28
北海道立小樽桜陽高等学校	全日	0	3	1		4	5
北海道立小樽商業高等学校	全日	0	3	11		14	10
北海道立小樽工業高等学校	全日	0	0	0		0	0
	定時	5	9	1	2	17	8
北海道立小樽水産高等学校	全日	134	156	33		323	122
小樽明峰高等学校	全日	0	0	3		3	4
小樽北照高等学校	全日	0	0	8		8	0
双葉高等学校	全日	0	0	0		0	0
計	全日	134	162	56		352	141
	定時	10	17	10	8	45	36
合計（全日・定時）		144	179	66	8	397	177

《注》本事業のうち、「就活セミナー」については、本事業への登録がない生徒も参加。

## (2) 就活セミナー

就職活動に必要な心構えや就職後に求められるビジネスマナーの基礎知識等の講義を以下のとおり小樽商業高等学校及び小樽桜陽高等学校の2校で実施した。なお、就活セミナー開催にあたり、開催時期や講義内容は学校と調整の上、授業の一環として実施した。

また、上記2校のほか、小樽水産高等学校、小樽潮陵高等学校（定時）及び小樽工業高等学校（定時）については、就活セミナーとしての開催はできなかったが、別の実施したキャリア支援出張授業において、参加生徒に対し同様の内容の講義を実施した。残る高校については、授業として時間がとれないなどの理由により本セミナーの活用希望はなかった。

### ①ビジネスマナー教室「基本的なビジネスマナー（インターンシップへ向けて）」

日 時 平成28年8月22日（月）11時50分 ～ 12時40分

場 所 北海道立小樽商業高等学校

参加者 同校2年生 99名 \*未登録生徒も受講

講 師 認定キャリアコンサルタント 本村 規子

内 容 2年生は9月初旬にインターンシップを控えており、受入れ先の企業において最低限必要とされる基本的なビジネスマナー（お辞儀、挨拶、敬語、電話対応、名刺交換など）や社会人としての基本的な振る舞いについて、キャリアカウンセラーによる講義を実施した。

### ②教養講座「ビジネスマナーの基本とは」

日 時 平成28年12月20日（火）12時30分 ～ 13時30分

場 所 北海道立小樽桜陽高等学校

参加者 同校3年生 134名 \*未登録生徒も受講

講 師 認定キャリアコンサルタント 本村 規子

内 容 社会人として求められる基本的なビジネスマナー（お辞儀、挨拶、敬語、電話対応、名刺交換など）や社会に出るための心構えについて、キャリアカウンセラーによる講義を実施した。

## (3) 企業見学会

企業見学会は、高校生が実際の就業環境や業務内容を見ることでより具体的に就職や企業の業務をイメージすることが可能となり、適正な職業選択や就職後の離職率の低下が期待できる。また、企業にとっても、直接、高校生に企業を紹介することができる場である。本年度は年度末卒業予定者向けに6回、次年度以降卒業予定者向けに4回の企業見学会を実施した。

実施時期については、年度末卒業予定者向けについては5月から8月までの期間、次年度以降卒業予定者向けについては、9月から翌年1月までの期間に実施し、市内全8校中7校（潮陵定時、桜陽、工業定時、商業、水産、明峰、北照）、延71名の生徒が参加した。

なお、企業見学会終了時には、参加生徒に対しアンケート調査を実施したが、生徒からは、「実際の工場やそこで働く方を間近で見学し、具体的に職場の雰囲気を確認することができた。」「企業から直接採用に関する情報を聞くことができた。」などの意見があった。

また、学校からは、「企業から働くことの意義について生徒が直接説明を受けることができ、学校職員が指導する以上に効果的に内容を実感し理解して貰えた。今後もそのような機会の提供をお願いしたい。」といった意見があった。

双葉高等学校については、生徒に対する事業説明を行ったが、部活動等の理由から企業見学会への参加を希望する生徒はいなかった。

#### <第1回企業見学会>

日 時 平成28年5月14日(土) 10時00分～11時30分

場 所 株式会社新倉屋(小樽市築港5番1号 新倉屋総本舗)

参加者 4校11名

内 容 最初に社長より会社創立から現在までの歴史について説明を受けた。その後、入社7年目と新入社員の2人から各担当業務の内容や仕事上工夫していることなど、入社後の経験を通じた説明があった。製造工場の見学の後、作りたての大福餅を試食させていただいた。最後に本店チーフから「‘お菓子’は人を笑顔にする商品であり、その笑顔に触れる仕事に誇りと喜びを持って取り組んでいる。」との説明があった。

#### <第2回企業見学会>

日 時 平成28年6月4日(土) 13時30分～15時00分

場 所 社会福祉法人小樽育成院(小樽市オタモイ1丁目20番20号)

参加者 5校8名

内 容 ‘養護老人ホーム’と‘特別養護老人ホーム’の違いや対象となる入居者、デイサービス、地域包括センターの役割などについて、スライド等の資料により説明を受けた。また、敷地内の「やすらぎ荘」と「小樽育成院」の各フロアを見学し、説明内容と現場を比較しながら各施設の役割について学習することができた。今年度からは、新卒高校生を採用し働きながら資格取得を目指す助成制度を開始することについても説明があった。参加生徒からは最後に1人ずつ質問し、介護福祉の仕事をしっかり学ぶ機会となった。

#### <第3回企業見学会>

日 時 平成28年6月18日(土) 10時00分～11時30分

場 所 株式会社かま栄(小樽市堺町3番7号 本社・工場直営店)

参加者 5校12名

内 容 管理部長より、社史や商品、原材料へのこだわりなどについて説明を受けた。その後、工場の見学ブースへ移動し製造工程を見学。ヒット商品である「パンロール」を作りたての状態で試食させていただいた。また、採用選考時の着眼点や面接における注意点などについて説明を受け、最後に参加生徒全員が疑問点や気になる点などを質問し就職活動の参考となる回答をいただいた。

#### <第4回企業見学会>

日 時 平成28年7月2日(土) 9時00分～11時00分

場 所 新日本海フェリー株式会社(小樽市築港7番2号勝納ふ頭)

参加者 5校12名

内 容 出航前のフェリー「ゆうかり」に乗船し、船内見学を実施。また、スライドにより、会社の創立や系列会社の業務、物流の仕組みなどについて説明を受けた。更に、昨年入社した若手社員2名(男女)から仕事の実態や給与、休日の過ごし方などの説明を受け、入社後の具体的なイメージをつかむ見学会となった。

#### <第5回企業見学会>

日 時 平成28年8月2日（火）10時00分～11時30分

場 所 極東高分子株式会社（小樽市銭函2丁目56番1号）

参加者 4校6名

内 容 会社パンフレットに記載の“パッケージのプロ集団”のとおり、ポリエチレン・ラミネート製品、プラスチック容器、段ボール製品など多種製品を製造している会社であり、広大な敷地内にある工場を5か所見学させていただいた。担当者からは、複雑な機械と工程の中には計算し尽くした仕組みや動きがあるとの説明があり、見学した生徒は想像を超える企業の工夫に驚き、その説明に熱心に耳を傾けていた。

#### <第6回企業見学会>

日 時 平成28年8月16日（火）10時00分～11時30分

場 所 おたる宏楽園（小樽市新光5丁目18番2号）

参加者 3校9名

内 容 宏楽園の社史、館内設備の特徴、また、最も大切な「おもてなしの心」などについて説明を受けた。設備などは新しいものを導入することなどによりレベルアップは図れるが、最後は「人」と「人」が接する場面で求められる「思いやり」や「気配り」など、おもてなしの心が問われるということを教えていただいた。参加者には、会社から「皆さまとの良いご縁が続きますように・・・。」と書かれた資料も用意されており、お客様が満足し更なるリピートにつながるようなきめの細かいおもてなしの数々を説明いただいた。

#### <第7回企業見学会>

日 時 平成28年9月10日（土）10時00分～11時30分

場 所 社会福祉法人小樽北勉会（小樽市朝里川温泉2丁目708番地1）

特別養護老人ホーム朝里温泉、軽費老人ホームケアハウス朝里温泉

介護老人保健施設ラポール朝里温泉、ショートステイ朝里温泉

参加者 1校3名

内 容 当日は、広い敷地内にある各種施設を見学し、それぞれの施設で行われているケアの種類や目的、また利用する方に必要な介護の内容などについて説明を受けた。一口に「介護」といっても、内容は決められた制度のほかには何通りもあるということを知る機会となった。また、利用者一人ひとりをよく見守りそれぞれの機能回復を目指した「生活リハビリ」という取組についても説明があった。今までできなかったことが、ちょっとした道具や支えでできるようになる可能性があるということ、それができた時、介護される人、する人どちらにとっても大きな喜びになるということも知ることができた。

#### <第8回企業見学会>

日 時 平成28年10月8日（土）13時00分～14時00分

場 所 ヒーリングサロン癒しの森（小樽市朝里川温泉2丁目676番地）

参加者 1校4名

目 的 エステというと高校生にはまだ馴染みのない分野であるが、接客業に共通する相手との接し方などのポイントについて説明を受けた。また、担当者からは、「仕事」を考える時は最低で

も3年は頑張り続ける大切さを教えていただいた。1年や2年では分からない、3年経ったからこそ見えてくる世界が必ずあるということ、また、「自分に合った仕事」と言われるが、自分に適しているがどうかは自らを知らなければ見つけにくく、自らを知るためには挑戦して新しい経験から何かを感じる必要があるとの説明があった。

#### <第9回企業見学会>

日時 平成28年11月12日(土) 11時00分～12時30分

場所 小樽典礼株式会社(小樽市稲穂3丁目4番1号)

参加者 1校3名

内容 常務と入社4年目の若手社員に案内いただいた。常務からは、葬祭業の特長や仕事の実態、そして自身の入社エピソードや採用時の重点などについて説明を受けた。若手社員からは、今回参加した生徒と同じ高校の卒業生ということもあり、より身近で説得力のある説明があった。高校生のできるだけ早い時期から自分の夢や目標を持つこと、また、その実現のために行動を起こすことを勧められた。自らの経験として、早い時期からのアルバイトや、このような「見学会」に参加するなど行動している人は「他の人と何か違う」と感じたことや、「将来を考えると、高校生活は雑にできない」という若手社員の言葉が印象的であった。

#### <第10回企業見学会>

日時 平成29年1月12日(土) 14時00分～15時30分

場所 医療法人小樽セントラルクリニック(小樽市富岡1丁目4番15号)

参加者 2校3名

内容 今回は正看護師を目指しながら仕事と勉強を両立させて働く准看護師や診療放射線技師、医療事務員、医師である新谷院長にそれぞれの仕事の具体的内容とその仕事に就くために進むべき進路について説明を受けた。病院で働く上で必要となる国家資格について、「進学」や「働きながら目指す方法」などいくつかの選択肢があることを知る機会となった。

#### (4) インターンシップ

インターンシップは、生徒が在学中に自らの学習内容や将来の進路等に関連した就業体験をすることを目的に実施するものであり、本事業では本年度から実施した。

北海道(北海道教育委員会)では受入企業等の確保などの課題を解決し内容の充実を図るため「高校生インターンシップ推進事業」を実施しており、道内全ての道立高校においてインターンシップが実施されている。

道立高校が実施するインターンシップでは、基本的に1人の生徒が参加できる企業を複数とすることが難しいと伺っており、これは、学校においては学校教育法や高等学校学習指導要領などに基づく様々な活動が課せられていることが、複数企業へのインターンシップ実施が難しい要因として考えられる。

本事業では、このような学校の取組みとは別に、少人数で時期を限定せず生徒の希望職種に合った市内企業での職場体験を実施するため、高校生、市内学校及び市内企業との調整を行った。

この結果、市内3校、延7名の生徒が5事業所でのインターンシップを経験することができ、参加した生徒に対する意識調査では、「働くということが実際にどれだけ大変か体験を通じて実感することができた」、「仕事は常に考えて行動しなければならない」などの意見があった。

また、学校からは、「インターンシップでは受入れ企業との調整が大変だった。本事業では生徒の希望



や企業との調整を行っていただけたので、学校職員への負担がなく生徒がインターンシップに参加できた。学校としては大変ありがたい。」「参加した生徒は生き活きと就業体験しており、就職や働くことに対する意識が高まった。」などの意見があった。

#### 【実施時期、受入企業、参加生徒】

第1回	平成28年8月4日(木)	喜久屋書店	1校	1名
第2回	平成28年8月10日(水)	田中酒造	1校	1名
第3回	平成28年8月21日(日)	ベルコ(ブライダル部門)	1校	1名
第4回	平成28年10月22日(土)～23(日)	利尻屋みのや	1校	2名
第5回	平成28年10月22日(土)～23(日)	おたる宏楽園	1校	2名

#### (5) 先輩との交流会

市内企業の若手社員と高校生との交流会を実施。先輩である若手社員からは、「働く」ことの苦労や楽しさなどについて自身の体験をもとに説明があった。また、高校生は若手社員に対し、入社後の喜びやつらい時の対応、仕事に慣れるまでの時間や慣れ方など、就業に対する期待や不安などについて質問した。

なお、交流会終了後に実施した生徒に対する意識調査では、「年齢が近い方からの説明を聞いて就職に対する不安が払拭された」、「通常は話してもらえないようなことも教えてもらった」、「高校生の時にやるべきことを教えてくれて参考になった」などの意見があった。

日時 平成28年5月20日(金) 16時00分～18時00分

場所 小樽経済センター 6階 応接室

参加 4校6名

若手社員	5名	(内訳)	新日本海フェリー株式会社	1名	(H27.4.1入社)
			社会福祉法人小樽育成院	2名	(H27.4.1入社)
			株式会社かま栄	1名	(H27.4.1入社)
			株式会社新倉屋	1名	(H28.4.1入社)

#### (6) 企業紹介

企業情報ファイルについては平成28年度から実施。各企業における高校生の求人については、例年、6月中旬に各企業が公共職業安定所に求人の申込みを行い、7月初旬に公共職業安定所から各学校に対し企業情報の提供が行われている(公共職業安定所から各学校への情報提供について、現在はウェブ上での情報提供が主となっており、各学校の教諭などが打ち出しして生徒に情報提供しているのが一般的となっている。)

生徒は多数の企業情報の中から希望職種や勤務地、勤務条件などを考慮の上、エントリーする企業を選定するが、本事業では、分かりやすい企業情報を各学校へ提供するため、企業から提供された情報に基づき「企業情報ファイル」を作成し、市内全ての学校の進路指導室などに設置し、生徒が企業を選定する際の「入口の情報」として活用いただいた。

なお、企業情報ファイルについて、生徒からは、「企業ごとに1枚の情報ファイルで整理されており見やすい」、「情報ファイルは同じ形式で整理されているので企業を比較しやすい」などの意見が、学校職員からは、「手に取って見ている生徒が多くなったと感じている」、「(限定された情報量や比較的年齢に近い職員のコメントなどを掲載しており)今までの企業情報より気軽に見ることができる。企業探しの

入口として有効な手段の一つではないか。」などの意見があった。

情報提供依頼件数：60社（電話や会社訪問により案内）

企業情報提供企業：16社（別紙参照）

設置場所：全8校10箇所（潮陵及び工業は全日と定時の2か所に設置）

企業情報ファイルへの記載内容：代表者挨拶、企業理念等、会社概要、若手社員の紹介、  
会社の特徴 など

#### (7) 個人面談

キャリアコンサルタントが高校生と個別面談し、個々人の意識を踏まえ、面接練習や履歴書作成など進路に関する指導・助言を行った。

個人面談は、各学校（進路指導室等）またはホープ・ワン（相談室）で実施し、今年度は123回（前年度105回）、面談を受けた生徒数は延べ120名（前年度101名）であった。一人の生徒に対し複数回実施することが多く、友人関係や就職に対しての不安などに関する相談が多く見受けられた。

なお、面談場所は、学校よりもホープ・ワン（相談室）を希望する生徒が多かった。

#### (8) キャリア支援出張授業

年度当初に各学校の進路担当教諭と打合せを行い、各学校の実情や要望と調整しながら、キャリアコンサルタントによるキャリア教育（高校生の適性の明確化や職業の選択などについて意欲の向上を促し自己決定を支援するなど）を、各高等学校に出向いて実施した。なお、出張授業の実施に当たっては、学校と調整しホームルームや総合学習などの時間も活用した。

今年度卒業予定者については、学校からの要望などを踏まえ、上手なコミュニケーションのとり方や自己分析をすることなど就職活動に向けた実践的な内容に重点を置いた。一方、その他の学年の生徒に対しては、まず初めに「仕事とは何か」という授業をすることにより、仕事をすることの意義を自分の中で明確にしてもらうことに重点を置いた。仕事に対する理解の向上〔職業理解〕と、生徒自身がやりたいと思う仕事を見つけるために自らについて考えること〔自己分析〕で、早い段階から仕事に対する心構えを持つことができる。人間性や仕事に対する心構えといった基礎の上に、インターンシップや企業見学会などを実施することで、雇用ミスマッチや早期離職の減少につながるものと考えている。

【授業の実績】 3校 46回 参加生徒 延べ1,456名

#### (9) 就職活動実践サポート

就職活動で必要とされるスキルである「面接の受け方（模擬面接を実施）」、「自己PRの手法」、「履歴書の作成方法」などについて、希望する生徒に対し個人または少人数で指導を行った。

希望があった生徒は市内全8校中3校（潮陵定時、水産、工業定時）延べ59名であり、指導は学校またはホープ・ワン（相談室）において行った。

面接の受け方や履歴書の作成は各学校においても実施しているが、本事業では外部講師による指導が受けられ、より本番に近い状況での模擬面接が実施できるという利点があることから、受講した生徒からは、「ビデオで振り返ることで自分の悪い部分を見る事が出来た」、「自分の良い部分悪い部分を教えてもらえて良かった」などの意見が多く、また、学校からは、「ビデオ撮影による振り返りは様々な角度から見る事が出来て指導の幅が広がった」、「企業が見るポイントを適切に生徒へ教えて貰え教員も勉強になった」などの意見があった。

【指導の実績】 3校 14回 参加生徒 延べ59名

(10) 企業と高校を結ぶ情報交換会

日 時 平成28年6月27日(月)

場 所 小樽経済センター 7階 Aホール

参加企業 24社32名(別紙参照)

参加高校 7校 9名(別紙参照)

内 容 情報交換のテーマを①「高校生の地元就職を促すために」及び②「早期離職を防ぐために」と設定。市内企業の採用担当者と市内学校の進路指導担当教諭が一堂に集まり、インターンシップや企業見学会、早期離職や雇用ミスマッチ、高校生の希望や着眼点、企業の採用、キャリア教育といった問題や課題について意見及び情報等の交換が行われた。なお、意見及び情報等をまとめた資料を作成し、後日、参加者に配布した。

【後日配布した資料の概要】

(ア) インターンシップについて・企業見学会

企業側からは、「1年生や2年生にも企業見学や企業訪問などに参加し企業を知ってもらいたい。先生にも企業へもっとアプローチしてほしい。」などの意見があった。

学校側からは、「合同企業説明会のように企業ブースを用意し、就職や進学に関係なく生徒が見て回り、どんな企業や仕事があるのか知る機会があれば良い。」などの意見があった。

(イ) 早期離職や雇用ミスマッチ

企業側からは、「1回の面接試験で採用を決めなければならないため、生徒と接する機会を増やしてほしい。」などの意見があった。

学校側からは、「早期離職等を防ぐためにも応募前に企業見学することを徹底しているが、応募前見学ができない企業もある。原則、応募前見学を認めてほしい。」などの意見があった。

(ウ) 高校生の希望や着眼点

企業側からは、「(変則ではなく)休日が確定していることを希望する生徒が多い。」「社会保険料などの給料天引きについて、学校の授業で生徒に説明してほしい。」などの意見があった。

学校側からは、「多くの生徒は仕事を選択する際に自宅から通勤可能な企業を希望するが、(生徒が希望する)アパレルや化粧品など美容関係の企業が地元にはない。」などの意見があった。

(エ) 企業の採用

企業側からは、「高校生の1人1社ルールにより、各校が希望生徒の絞り込みを行う段階で、必ずしも企業が希望する人材が選考されず、その結果、ミスマッチが生じる可能性がある。」「専攻学科などより人物を重視している。」などの意見があった。

(オ) キャリア教育

企業側からは、「学校の授業では扱わない社会保険等について、採用した職員に説明する必要はあるが、社会に出る前に保護者や学校が教えることはないのか。」などの意見があった。

学校側からは、「1年生からキャリア教育に取り組んでいるが、教育業界の進め方などから問題も山積している。」などの意見があった。

《参考》高校生の企業への応募に係る申し合わせについて

北海道高等学校就職問題検討会議では、高校生による企業への応募については、推薦開始日(9月5日)から10月31日までは1人1社であるが、11月1日以降は1人2社まで応募を可能とした申し合わせを行っている。

### Ⅲ. 新卒未就職者、若年早期離職者への支援

本事業は新卒未就職者及び若年早期離職者に対して、高校生への支援同様に各取組を実施して早期の正規雇用実現を図るものであるが、今年度はその登録者がわずか2名であり、新卒未就職者や若年早期離職者を本事業の登録にいかに関与させるかが課題として浮き彫りとなった。

なお、就活セミナーや企業見学会については、実施場所（学校）や日程調査などを理由に高校生との共同実施ができず、結果として実施できなかったが、個人面談や就活実践サポート（履歴書の指導・面接の指導など）を実施し、個々の適性に合った資格取得に係る助言や履歴書の作成や面接についての指導を行った。

また、正規雇用実現までの間の生活支援として、市内企業を中心としたアルバイト求人情報を提供したほか、正規雇用のための求人情報についても個々の適性に依って提供した。

### Ⅳ. 平成28年度事業を終えて（課題と今後の取組）

#### （1）高校生（就職希望生徒）への支援について

平成29年3月に市内の高等学校を卒業する予定の生徒は約1,100名、そのうち就職を希望する生徒は約290名で卒業予定者全体に占める割合は約4分の1であるが、平成29年3月に小樽市が実施した調査では、最終確定ではないものの、就職を希望する生徒については概ね就職が内定しており、そのうち、市内事業所への就職内定者は51.8%となっている。

市内高等学校の生徒に係る市内事業所内定者の割合について、平成27年度は46.8%であり、ここ数年45%前後で推移していたことから、今年は高校生の市内企業への定着が期待されるが、これは全国的な人手不足を背景に市内企業においても「地元高校生を採用し育成したい」といった取組があることが要因の一つと考えられる。

このような中、人口減少、特に若年者の市外流出を抱える小樽市においては、「地元に住み続けたい」、「地元企業に就職したい」または「どんな企業が地元にあるのか良くわからない」などと思っている高校生をいかに支援し正規雇用に関与させるかが重要である。それにより、新規学卒者の市外転出抑制や市内企業における人材確保、さらには、若年者の企業定着により企業は効果的な人材育成が可能となり、企業の労働生産性の向上も期待される。

経済動向については、全国的には緩やかな景気回復基調にあり、道内経済も緩やかに持ち直しているとされる中、管内経済においても全体として「持ち直し」、雇用も「改善の動きが続いている」と判断されている。

一方、中小企業が中心の小樽市においては、いわゆる「売り手市場」による賃金の高騰などから、市内企業の求人活動には不安材料があり、これらを払拭する上でも、今後も本事業を通じて、市内の企業や市内学校など関係者がより綿密に情報を交換しながら、市内高校生の就職活動を支援していく必要がある。

そのためにも就職希望の生徒にとって本事業が必要とされ選択される事業内容であることが重要と考えるが、本事業の登録状況を鑑みると、就職希望者の割合が高い一部の学校において本事業の利用率は決して高いとは言えない現状がある。学校や生徒が求める支援内容の把握に努め、事業内容のさらなる改善と登録者数の増加により、事業効果を高めることが必要と考える。

なお、高校生など若年者の早期離職問題の要因として、就職前の企業情報と就職後の企業実態の相違

などのいわゆる“ミスマッチ”が挙げられるが、これについては、インターンシップや企業見学会の実施により対応することが重要と考える。

一方、新規高等学校卒業予定者については、「就職機会の確保」と「職業紹介の円滑化」を理由に推薦開始日から10月31日までは1人1社、11月1日以降は1人2社まで応募を可能とする申し合わせがあり、このことがいわゆる“ミスマッチ”を引き起こし、早期離職の原因になっているとも言われ、また、北海道は離職率の高い「サービス業や建設業などの産業」や「小規模な事業所」の割合が高いといった産業構造上の問題も指摘されており、これらについては、国や北海道の対応などにも注視していく必要がある。

## (2) 「新卒未就職者」や「若年早期離職者」への支援について

「新卒未就職者」や「若年早期離職者」への支援については今年度の対象者が2名にとどまり、対象者を本事業に結びつける難しさが浮き彫りとなった。

北海道における就職後3年以内の離職率（平成25年3月卒業から平成28年3月まで）は、高校で48.7%と全国よりも7.8ポイント高く、若者の早期離職は正規雇用への転職ができず、転職しても労働条件が悪くなるなど、さらに転職を繰り返すリスクが高まるほか、企業にとっても人材不足、技術・ノウハウの継承に影響するなど、若者と企業の双方にとって問題があるとされている。

このため、北海道では、平成28年3月に、今後4年間の総合的な取組方向を示した「若者早期離職防止総合対策プログラム」を策定し、在学時や就活時、就職後など各ステージにおける若者・企業双方への支援を取り組むこととしている。

本市においても、「新卒未就職者」や「若年早期離職者」への対策は引き続き必要であり、個人情報等の取扱いなどから学校など関係機関の協力が難しい中でも、新卒未就職者や若年早期離職者をいかに本事業への登録に結び付けるかが課題となっている。

## 1. 平成28年度 登録者数

		4月		5月		6月		7月		8月		9月	
		全日	定時	全日	定時	全日	定時	全日	定時	全日	定時	全日	定時
高校生 登録者数	1年	0	5	0	5	0	5	0	5	0	5	0	5
	2年	151	17	154	17	154	17	154	17	155	17	160	17
	3年	27	10	56	10	56	10	56	10	56	10	56	10
	4年		8		8		8		8		8		8
	計	178	40	210	40	210	40	210	40	211	40	216	40
うちフォ ローアッ プ生徒 数	3年	27		27		27		27		27		27	
	4年		8		8		8		8		8		8
	計	27	8	27	8	27	8	27	8	27	8	27	8
新卒未就職者		0	4	0	3	0	2	0	2	0	2	0	2
早期離職者数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		178	44	210	43	210	42	210	42	211	42	216	42
計		222		253		252		252		253		258	

		10月		11月		12月		1月		2月		3月		H27末実績	
		全日	定時	全日	定時	全日	定時	全日	定時	全日	定時	全日	定時	全日	定時
高校生 登録者数	1年	134	10	134	10	134	10	134	10	134	10	134	10	68	12
	2年	160	17	160	17	162	17	162	17	162	17	162	17	27	7
	3年	56	10	56	10	56	10	56	10	56	10	56	10	46	9
	4年		8		8		8		8		8		8		8
	計	350	45	350	45	352	45	352	45	352	45	352	45	141	36
うちフォ ローアッ プ生徒 数	3年	27		27		27		27		27		27		36	
	4年		8		8		8		8		8		8		8
	計	27	8	27	8	27	8	27	8	27	8	27	8	36	8
新卒未就職者		0	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2		3
早期離職者数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
小計		350	47	350	47	352	47	352	47	352	47	352	47		
計		397		397		399		399		399		399			180

※フォローアップ生徒：卒業年度の前年度に登録し引き続き卒業年度にも登録した生徒のこと。

## 2. 登録者のうち平成29年3月に卒業する生徒の就職・進学状況

就職・進学状況		就 職		進 学		その他	合計
		内 定	活動中	専門学校	大 学		
高校生登録者	全日制3年生	41	2	10	3	0	56
	定時制4年生	5	0	2	1	0	8
	計	46	2	12	4	0	64
うちフォ ローアッ プ 生徒	全日制3年生	19	2	4	2	0	27
	定時制4年生	5	0	2	1	0	8
	計	24	2	6	3	0	35

## 3. 個別事業の実績一覧

事業名	実績項目	H28度 実績	H27度 実績	H26度 実績	備 考
就活セミナー	回数	2回	3回	3回	
	参加者数	233名	161名	177名	
企業見学会	回数	10回	6回	6回	
	参加者数	71名	25名	30名	
インターンシップ ※新規	企業数	5社	-	-	
	参加者数	7名	-	-	
個人面談	回数	123回	105回	100回	
	参加者数	120名	101名	94名	参加者数は延数
キャリア支援出張授業	学校数	3校	5校	5校	
	回数	47回	49回	50回	
	参加者数	1456名	1696名	1608名	参加者数は延数
就職活動実践サポート	回数	14回	20回	18回	
	参加者数	59名	41名	40名	参加者数は延数
企業と高校を結ぶ情報交換会	企業数	24社	19社	18社	
	学校数	7校	7校	7校	
	回数	1回	1回	1回	
	参加者数	46名	34名	37名	

4. 企業見学会（開催日、見学先、参加した生徒数）

	実施日	見学先企業・施設名	参加人数
第1回	平成28年5月14日	株式会社 新倉屋	11名
第2回	平成28年6月4日	社会福祉法人 小樽育成院	8名
第3回	平成28年6月18日	株式会社 かま栄	12名
第4回	平成28年7月2日	新日本海フェリー株式会社	12名
第5回	平成28年8月2日	極東高分子株式会社	6名
第6回	平成28年8月16日	おたる宏楽園	9名
第7回	平成28年9月10日	社会福祉法人 小樽北勉会	3名
第8回	平成28年10月8日	ヒーリングサロン 癒しの森	4名
第9回	平成28年11月12日	小樽典礼株式会社	3名
第10回	平成29年1月12日	医療法人 小樽セントラルクリニック	3名
参加者総数			71名

5. 企業紹介 協力企業一覧

参加企業
社会福祉法人 小樽育成院
ヒーリングサロン 癒しの森
稲穂スズキ株式会社 スズキアリーナ小樽
株式会社 小樽海洋水産
医療法人 小樽セントラルクリニック
小樽典礼株式会社
株式会社 かま栄
株式会社 恵新自動車学園
極東高分子株式会社
おたる宏楽園
西條産業 株式会社
新日本海フェリー株式会社
株式会社 田中工業
有限会社 ツクナカ
株式会社 新倉屋
北海道ワイン 株式会社

6. キャリア支援出張授業（実施校、対象学年、回数、参加した生徒数）

実施高校名	対象学年	回数	人数
北海道小樽潮陵高等学校 （定時制）	1、2、3 年生	4回	84名
	1年	8回	318名
	2年	22回	858名
北海道小樽水産高等学校	3年	2回	148名
	1年	3回	15名
	2年	3回	27名
北海道小樽工業高等学校 （定時制）	3年	3回	3名
	4年	1回	3名
	合計	46回	1456名

7. 企業と高校を結ぶ情報交換会（参加企業・職員、参加学校・職員）

参加企業	参加者数
株式会社 あまとう	1名
社会福祉法人 小樽育成院	3名
株式会社 小樽海洋水産	1名
株式会社 温泉宏楽園	1名
小樽信用金庫	1名
小樽中央自動車学校	3名
小樽典礼 株式会社	2名
社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院	1名
社会福祉法人 小樽北勉会	1名
株式会社 かま栄	1名
極東高分子 株式会社	1名
株式会社 恵新自動車学園	3名
近藤工業 株式会社	1名
西條産業 株式会社	1名
昭和製器 株式会社	2名
新日本海フェリー 株式会社	1名
株式会社 スギヨ北海道工場	1名
株式会社 田中工業	1名
有限会社 ツクナカ	1名
株式会社 新倉屋	1名
北海道ワイン株式会社	1名
株式会社 丸本本間食品	1名
有限会社 利尻屋みのや	1名
株式会社 六美	1名
合 計 (24社)	32名

参加学校	参加者数
北海道小樽潮陵高等学校（定時制）	1名
北海道小樽桜陽高等学校	1名
北海道小樽商業高等学校	1名
北海道小樽工業高等学校（定時制）	1名
北海道小樽水産高等学校	2名
小樽北照高等学校	2名
双葉高等学校	1名
合 計 (7校)	9名



《参考》

1. 平成29年3月卒業者就職状況

(単位：%)

最終調査時数値	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
就職内定率(全日・定時)	94.7	97.1	99.3	98.2	97.9
市内事業所就職内定率	46.1	43.2	45.6	46.8	51.8

※平成28年度は、平成29年2月末現在の数値

(小樽市産業港湾部商業労政課)

2. 有効求人倍率

(単位：倍)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
小樽	0.56	0.75	0.88	1.02	1.14
北海道	0.58	0.74	0.86	0.96	1.06
全国	0.75	0.88	1.00	1.11	-

※平成28年度は、平成29年1月末現在の数値

※出所 「雇用失業情勢」：ハローワークおたる

3. 新規高卒就職者の離職状況

(単位：%)

	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
高校(道内)	47.7	51.0	50.5	48.2	48.7
高校(全国)	35.7	39.2	39.6	40.0	40.9

※出所 「新規高卒就職者の離職状況」：北海道労働局

※「平成25年3月」の数値は平成25年3月卒業で平成28年3月までに離職した者の割合

4. 小樽市の人口年齢構成

(単位：人)

	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年2月
年少人口(0歳～14歳)	12,255	11,974	11,540	11,237	10,841
生産年齢人口(15歳～64歳)	72,987	70,323	67,423	65,135	63,627
老年人口(65歳～)	43,163	44,123	45,159	45,716	45,974
合計	128,405	126,420	124,122	122,088	120,442

(単位：%)

	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年2月
年少人口(0歳～14歳)	9.55	9.47	9.30	9.20	9.00
生産年齢人口(15歳～64歳)	56.84	55.63	54.32	53.35	52.83
老年人口(65歳～)	33.61	34.90	36.38	37.45	38.17

(小樽市生活環境部戸籍住民課)